

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Understanding the relationship between postpartum depression one month and six months after delivery and mother–infant bonding failure one–year after birth: results from the Japan Environment and Children’s study (JECS)

和文タイトル: 産後1か月および6か月の産後うつと産後1年時の対児愛着との関連の理解: 子どもの健康と環境に関する全国調査より

ユニットセンター(UC)等名: 富山UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Psychological Medicine

年: 2019 月: 9 巻: 49 頁:

筆頭著者名: 笠松 春花

所属UC名: 富山UC

目的:

産後うつは母親のQOLだけでなく、子どもを大切に思う気持ち「ボンディング(対児愛着)」にも影響を与えることが知られている。しかし、産後複数時点での抑うつ症状と産後1年時のボンディングとの関連は十分に明らかになっていない。そこで、本研究では大規模出生コホート調査のデータを用いてこの関連を調べた。

方法:

対象は「子どもの健康と環境に関する全国調査」に参加し、選択基準に合致した母親83,109名である。ボンディングは赤ちゃんへの気持ち質問票(MIBS-J)、産後うつはエジンバラ産後うつ質問票(EPDS)を用いて評価し、一般化線形モデルを用いて関連を検討した。加えて、MIBS-JとEPDSの因子ごとの関連、EPDSカットオフ値(8/9)に基づく群ごとのMIBS-J得点の比較検討を行った。

結果:

一般化線形モデルにおける解析の結果、共変量での調整後も産後1か月および6か月の抑うつと産後1年時のボンディング不全の間には有意な正の関連が認められた。また、MIBS-J(「愛情の欠如」「怒りと拒絶」とEPDSの各因子(「不安」「快感消失」「抑うつ」)は全て有意な正の関連を示した。中でも、「愛情の欠如」には「快感消失」が、「怒りと拒絶」には「不安」が他の因子よりも強い関連を示した。両時点でEPDS陰性の群に次いで、産後1か月のみEPDS陽性の群でMIBS-Jの得点が他の群より有意に低かった。

考察:(研究の限界を含める)

本研究では、産後1か月および6か月での抑うつが産後1年時のボンディング不全の予測因となりうることを大規模な出生コホート調査のデータを用いて示した。また、ボンディングの各症状と産後うつの各症状との関連も明らかにした。さらに、群ごとの比較により、産後うつの症状を示した者のうち早期に症状が改善した者は改善しなかった者より、産後1年時にボンディング不全の症状を示すリスクが低い可能性を示唆した。本研究の限界としては、産後うつの評価は自己報告式であり臨床診断に基づくものではないこと、ボンディング不全の診断基準が統一されていないこと、観察研究であるため因果関係への言及はできないことが挙げられる。

結論:

産後1か月および6か月での抑うつ症状と産後1年時のボンディング不全の間には有意な正の関連が認められた。本研究の結果は早期の産後うつの同定がボンディング不全を減じる可能性を示唆する。